

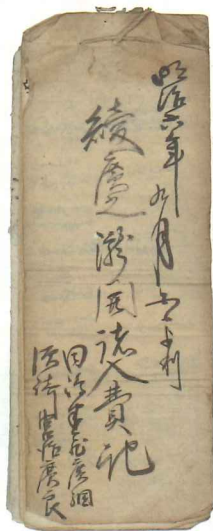
# 御嶽神社あれこれ

## 「綾広の滝」の記録

青梅市文化財保護指導員 小島みどり

御岳山には、七代の滝と綾広の滝という二つの滝があります。両滝は同じ水源から流れ落ち、ハイキング客が多く訪れる、ロックガーデンの下流と上流に位置しています。

七代の滝は江戸時代の書物に登場し、絵図にも多く描かれています。しかし、綾広の滝は絵図や文章がほとんどありません。幕末に御岳山を頻繁に訪れ、『御嶽菅笠』を書いた齋藤義彦が、文政五年に「みたけ山をよめる歌」の中で「あや瀧の糸もみだれて」と詠み、また、天保十一年に著書の『今物語國之顯言』で御岳山について「東國無双の霊山にして甲籠山の峯・七代の瀧・吾婦小根・鸚鵡磬・綾瀧・富士峯・・・」と述べている二つの文章以外は確認されていません。義彦の書いた綾瀧は綾広の滝で、江戸時代は一般の人々が近づけない、修験者が身を清め



る深い渓谷の滝だったと思われる。今回ご紹介する記録は、武蔵御嶽神社に伝わる古文書の中の「綾廣之瀧開諸入費記」です。これは、明治六年九月から記入されていた綾広の滝へ行く道と、石碑を造った時の費用が書かれている古文書です。

綾広の滝を一般の人も行けるようにと整備したのは講中の人々でした。発願主は武州埼玉郡羽生領町屋新田の田嶋半蔵廣綱、御師は須崎宮治廣良です。他に町屋新田、樋遣川村、下谷村、下常木村、三田ヶ谷村、手小林村の講中も費用を出しています。

滝までの道造りや石碑建立には、黒鍬と呼ばれていた土木巧者が携わりました。「明治六年六月瀧ひらき二付、山内へ披露のため酒代 金壹両也」という記述からは、明治六年に、修験者や御師だけではなく、だれでも滝を拝むことができるようになったことがわかります。

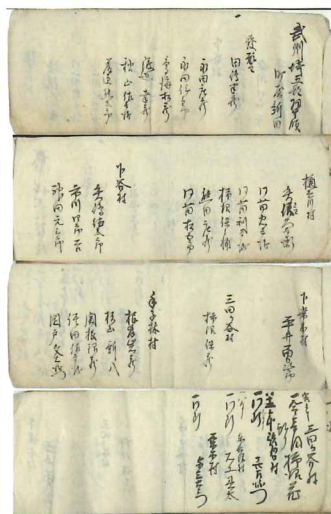
滝に建てた石碑の石は、遠く大師川原（川崎市）から運んできたようで、青梅までの運送賃は二円二十五銭、青梅から御岳山までは六円が掛かっています。石工は武州多摩郡東長沼村の篠崎丑太です。石碑を建てるための人足は延べ二十人が記録されています。その中には御師の名前もあり、一山協力して石碑建立にあたったようです。また、滝の近くに

あったとされる御堂には、扁額も奉納しています。石碑は現在でも滝の右手の岩陰にあり、「破戸大神 奉納者 埼玉町屋新田 田島廣綱 石工 篠崎丑太 御師 須崎廣良 明治六年九月吉日」と刻まれています。

この記録は、現在のところ、綾広の滝の初出文書です。奉納者と御師の名前の「廣」が滝の名前に入っていて、二人に因んだ名称かもしれません。

「綾廣之瀧開諸入費記」には、滝の開かれた後も、毎年三月と七月には瀧掃除と道の草刈りに人足賃を出していたという記述もあります。

明治時代以降、観光で御岳山を訪れる人が増え、綾広の滝は誰でも訪れることができる観光スポットとなりました。「綾廣之瀧開諸入費記」は、御岳山観光開発の先駆けを担った講中の記録ともいえます。



左：明治6年奉納者と石工の名前 右：当時奉納された石碑

## 灯籠奉納

多くの方にご奉納いただき、神社拜殿前に九基建立させていただきました。厚く御礼申し上げます。

〔二基 奉納者(順不同・敬称略)〕  
富士鋼工業株式会社  
有限会社サンベアー

進藤喜一・喜美子  
村野英夫  
日本書鏡院会長 長谷川耕史  
岩浪勝二・岩浪睦子  
野崎啓太郎・恵子  
学校法人吉野学園  
すぎの森幼稚園



平成三十一年三月一日  
令和二年一月三十一日  
(二万円以上順不同・敬称略)

市川 実  
本田工業 本田三郎  
坂本祐弥  
森田工業所  
中里 保  
松本和治  
有限会社金咲通産 金崎強  
武藤文夫  
高桑孝之  
野島重好  
豊村信夫  
加藤 繁  
(有)富岡青果 富岡安太郎

## 石段奉納

奉納  
平成三十一年三月一日  
令和二年一月三十一日  
(二万円以上順不同・敬称略)

東京都神社庁 清水祥彦  
嶋田亜也子  
(株)ティエラ・リサ・セシール 本道真智子  
宮井芙美子  
宇田川洋子  
野嶋和之  
高橋永子  
齋田 清  
(社)日本甲冑武具研保協会  
(有)小町建築設計事務所  
東海林守 小町幸生

山下 貞

瀧中満江  
森田順一  
渡邊真理  
清水製作所  
代表取締役 清水浩久  
小村高平  
上板橋桜川敬神講  
秋山和洋  
瀨口綾香  
石田正司  
大久保貴惟  
武藤治作酒店 武藤一由  
山下伸司  
成毛博之  
加藤友久  
大泉辛西講中  
市村隆英

高橋拓司

大星協会 白根真澄  
田中成治  
(有)サンベアー 進藤喜一  
成田八重子  
足田 勇  
清水宏朗  
谷田部秀一  
福島玲子  
和田まち子  
大藪龍二郎  
中村浩義  
(有)スエスシップ 梅原英明  
八木岡照義  
鈴木朝子  
高瀬講中 小野源一  
佐田ひろみ  
植木博一

## 敬神奉賛員大祭のお知らせ

本年は敬神奉賛員を募集してより三年目を迎えました。そこで会員の皆様にご参集頂き、ご神前にて家内安全・諸願成就の祭典を執行後、会食にて親睦を深めて頂きたく「奉賛員大祭」を斎行する事となりました。

秋の風薫る御岳山へどうぞお越し下さい。  
また、年会費のお支払いがお済みでない方は、お納め頂けましたら幸いです。

日時：令和二年十月十一日

## 敬神奉賛員募集のご案内

当社では、敬神奉賛員を募集しております。敬神奉賛員とは、御嶽大神の御神徳を敬い、皆様の心の拠りどころとして、また武蔵御嶽神社の更なる護持発展を目的に創設いたしました。

※詳しくは、社務所までご連絡下さい。

## 太々神楽奏上

平成三十一年二月一日〜令和二年一月三十一日

川崎市 馬絹講中  
川崎市宮前区 神木講中  
大田区 六郷参拝講中  
小平市 表講中  
昭島市 拝島坂上講中

近年太々神楽奏上が少なくなっております。太々神楽はどなたでも奏上いただくことが出来ます。是非、太々神楽を奏上されますよう、皆様のお申込をお待ち申し上げます。

神楽と雅楽の一般公開(神楽殿・十二時開演)

六月二十一日・十月十八日  
夜神楽(神楽殿・夜八時開演)

## 注連縄奉納

昨年暮れに、拜殿正面を飾る大注連縄等を、「日本の伝統を守り伝える 絆会」様よりご奉納いただきました。誠に有難うございました。



拜殿前



社務所前

## 桜苗木奉納

十一月十九日、「多摩の桜をつなぐ会」様による、「山桜」の植樹が行われました。大きく育ち満開の桜が見られるようになるのが楽しみです。今年もご奉納、誠に有難うございました。